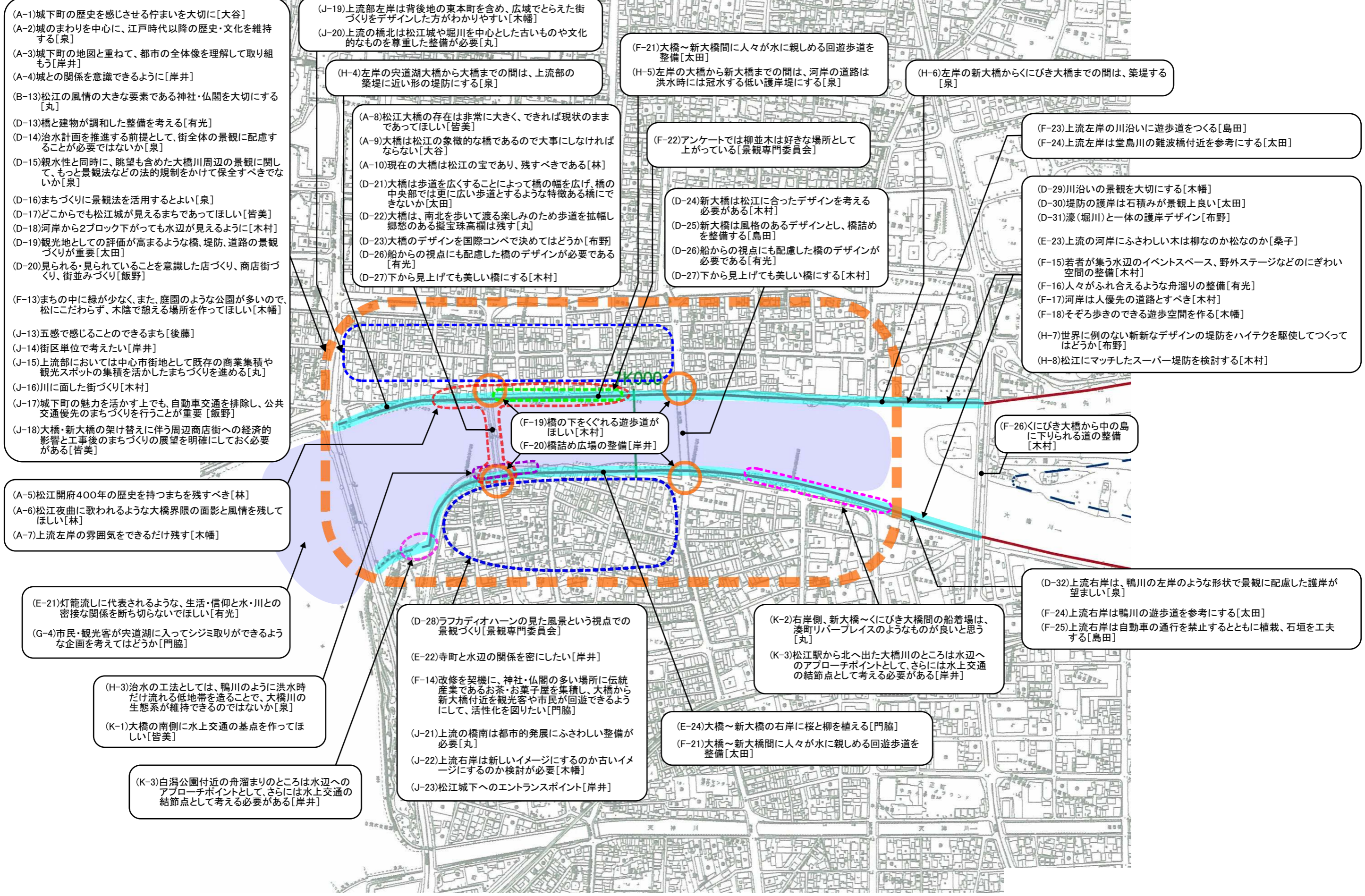


上・中・下流部それぞれの基本方針を検討するための参考資料

〔 第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会及び
第4回・第5回景観専門委員会の結果より 〕

■第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果より【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「まとめ」】

【上流部で出された意見の位置図】



(A-1)城下町の歴史を感じさせる佇まいを大切に[大谷]
 (A-2)城のまわりを中心に、江戸時代以降の歴史・文化を維持する[泉]
 (A-3)城下町の地図と重ねて、都市の全体像を理解して取り組もう[岸井]
 (A-4)城との関係を意識できるように[岸井]
 (B-13)松江の風情の大きな要素である神社・仏閣を大切に[丸]
 (D-13)橋と建物が調和した整備を考える[有光]
 (D-14)治水計画を推進する前提として、街全体の景観に配慮することが必要ではないか[泉]
 (D-15)親水性と同時に、眺望も含めた大橋川周辺の景観に関して、もっと景観法などの法的規制をかけて保全すべきではないか[泉]
 (D-16)まちづくりに景観法を活用するとよい[泉]
 (D-17)どこからでも松江城が見えるまちであってほしい[皆美]
 (D-18)河岸から2ブロック下がっても水辺が見えるように[木村]
 (D-19)観光地としての評価が高まるような橋、堤防、道路の景観づくりが重要[太田]
 (D-20)見られる・見られていることを意識した店づくり、商店街づくり、街並みづくり[飯野]
 (F-13)まちの中に緑が少なく、また、庭園のような公園が多いので、松にこだわらず、木陰で憩える場所を作ってほしい[木幡]
 (J-13)五感で感じることのできるまち[後藤]
 (J-14)街区単位で考えたい[岸井]
 (J-15)上流部においては中心市街地として既存の商業集積や観光スポットの集積を活かしたまちづくりを進める[丸]
 (J-16)川に面した街づくり[木村]
 (J-17)城下町の魅力を活かす上でも、自動車交通を排除し、公共交通優先のまちづくりを行うことが重要[飯野]
 (J-18)大橋・新大橋の架け替えに伴う周辺商店街への経済的影響と工事後のまちづくりの展望を明確にしておく必要がある[皆美]

(A-5)松江開府400年の歴史を持つまちを残すべき[林]
 (A-6)松江夜曲に歌われるような大橋界隈の面影と風情を残してほしい[林]
 (A-7)上流左岸の雰囲気できるだけ残す[木幡]

(E-21)灯籠流しに代表されるような、生活・信仰と水・川との密接な関係を断ち切らないでほしい[有光]
 (G-4)市民・観光客が宍道湖に入ってシジミ取りができるような企画を考えてはどうか[門脇]

(H-3)治水の工法としては、鴨川のように洪水時だけ流れる低地帯を造ることで、大橋川の生態系が維持できるのではないかと[泉]
 (K-1)大橋の南側に水上交通の基点を作ってほしい[皆美]

(K-3)白潟公園付近の舟溜まりのところは水辺へのアプローチポイントとして、さらには水上交通の結節点として考える必要がある[岸井]

(J-19)上流部左岸は背後地の東本町を含め、広域でとらえた街づくりをデザインした方がわかりやすい[木幡]
 (J-20)上流の橋北は松江城や堀川を中心とした古いものや文化的なものを尊重した整備が必要[丸]

(H-4)左岸の宍道湖大橋から大橋までの間は、上流部の築堤に近い形の堤防にする[泉]

(A-8)松江大橋の存在は非常に大きく、できれば現状のままであってほしい[皆美]
 (A-9)大橋は松江の象徴的な橋であるので大事にしなければならない[大谷]
 (A-10)現在の大橋は松江の宝であり、残すべきである[林]
 (D-21)大橋は歩道を広くすることによって橋の幅を広げ、橋の中央部では更に広い歩道とするような特徴ある橋にできないか[太田]
 (D-22)大橋は、南北を歩いて渡る楽しみのため歩道を拡幅し郷愁のある擬宝珠高欄を残す[丸]
 (D-23)大橋のデザインを国際コンペで決めてはどうか[布野]
 (D-26)船からの視点にも配慮した橋のデザインが必要である[有光]
 (D-27)下から見上げても美しい橋にする[木村]

(F-21)大橋～新大橋間に人々が水に親しめる回遊歩道を整備[太田]
 (H-5)左岸の大橋から新大橋までの間は、河岸の道路は洪水時には冠水する低い護岸堤にする[泉]

(F-22)アンケートでは柳並木は好きな場所として上がっている[景観専門委員会]

(D-24)新大橋は松江に合ったデザインを考える必要がある[木村]
 (D-25)新大橋は風格のあるデザインとし、橋詰めを整備する[島田]
 (D-26)船からの視点にも配慮した橋のデザインが必要である[有光]
 (D-27)下から見上げても美しい橋にする[木村]

(H-6)左岸の新大橋からくにびき大橋までの間は、築堤する[泉]

(F-23)上流左岸の川沿いに遊歩道をつくる[島田]
 (F-24)上流左岸は堂島川の難波橋付近を参考に[太田]

(D-29)川沿いの景観を大切に[木幡]
 (D-30)堤防の護岸は石積みが景観上良い[太田]
 (D-31)濠(堀川)と一体の護岸デザイン[布野]

(E-23)上流の河岸にふさわしい木は柳なのか松なのか[桑子]
 (F-15)若者が集う水辺のイベントスペース、野外ステージなどのにぎわい空間の整備[木村]
 (F-16)人々がふれ合えるような舟溜りの整備[有光]
 (F-17)河岸は人優先の道路とすべき[木村]
 (F-18)そぞろ歩きのできる遊歩空間を作る[木幡]
 (H-7)世界に例のない斬新なデザインの堤防をハイテクを駆使してつくってはどうか[布野]
 (H-8)松江にマッチしたスーパー堤防を検討する[木村]

(F-26)くにびき大橋から中の島に下りられる道の整備[木村]

(D-32)上流右岸は、鴨川の左岸のような形状で景観に配慮した護岸が望ましい[泉]

(F-24)上流右岸は鴨川の遊歩道を参考に[太田]
 (F-25)上流右岸は自動車の通行を禁止するとともに植栽、石垣を工夫する[島田]

(D-28)ラファディオハーンの見た風景という視点での景観づくり[景観専門委員会]
 (E-22)寺町と水辺の関係を密にしたい[岸井]

(F-14)改修を契機に、神社・仏閣の多い場所に伝統産業であるお茶・お菓子屋を集積し、大橋から新大橋付近を観光客や市民が回遊できるようにして、活性化を図りたい[門脇]

(J-21)上流の橋南は都市的発展にふさわしい整備が必要[丸]
 (J-22)上流右岸は新しいイメージにするのか古いイメージにするのか検討が必要[木幡]
 (J-23)松江城下へのエントランスポイント[岸井]

(K-2)右岸側、新大橋～くにびき大橋間の船着場は、湊町リバープレイスのようなものが良いと思う[丸]
 (K-3)松江駅から北へ出た大橋川のところは水辺へのアプローチポイントとして、さらには水上交通の結節点として考える必要がある[岸井]

(E-24)大橋～新大橋の右岸に桜と柳を植える[門脇]
 (F-21)大橋～新大橋間に人々が水に親しめる回遊歩道を整備[太田]

【中～下流部で出された意見の位置図】

- (C-3)生態系の保全[有光]
- (C-5)中州は貴重な湿地であり、維持・保全すべき[木村]
- (C-6)中州のビオトープ機能の向上[木村]
- (C-7)中州は環境教育の場としたい[岸井]
- (C-8)中州を植物・生物に関する学習の場として活用する[飯野]
- (C-9)中州は中心市街地に隣接した農地であり、環境学習の視点も含めて、エコ農法など新しい農業の展開の可能性を探ってはどうか[松本]
- (C-10)中州の水路を利用した生態系観察ルートを設定してはどうか[松本]

- (D-33)中州の水郷風景の保全[有光]
- (F-27)中州はニューヨークのセントラルパークのような広大な森林公園としたい[丸]
- (H-9)中州をできるだけ治水に役立てる[岸井]
- (H-10)中州は遊水池としての機能を保全[有光]
- (K-4)第五大橋から松江の中心部に直接つながるハイウェイをつくる[丸]

- (F-28)中州の川沿いに遊歩道を整備[島田]
- (F-29)中州の川沿いにジョギングができるような遊歩道を整備[太田]
- (F-30)美しい景観を気軽に楽しめるサイクリングロードの整備[木村]
- (F-31)下流左岸に川沿いの遊歩道を整備[島田]
- (F-32)下流域から島根半島全体を見据えたサイクリングロードの整備をしたらどうか[島田]

(G-5)水上スポーツなどが楽しめるよう整備する(剣先川)[太田]

(C-15)多くの鳥類がいる河口付近を、自然に関する様々な学習の場として位置付けるとおもしろい[飯野]

(B-14)宍道湖から中海までを一体的に考えたとき、多賀神社周辺の緑は大切なポイントであり、その空間を大切にするという意識を持つべき[岸井]

(D-38)赤瓦の集落が移転で無くなるのは残念[有光]
(L-1)集団移転が必要な地区では、生活基盤の維持に配慮が必要[太田]

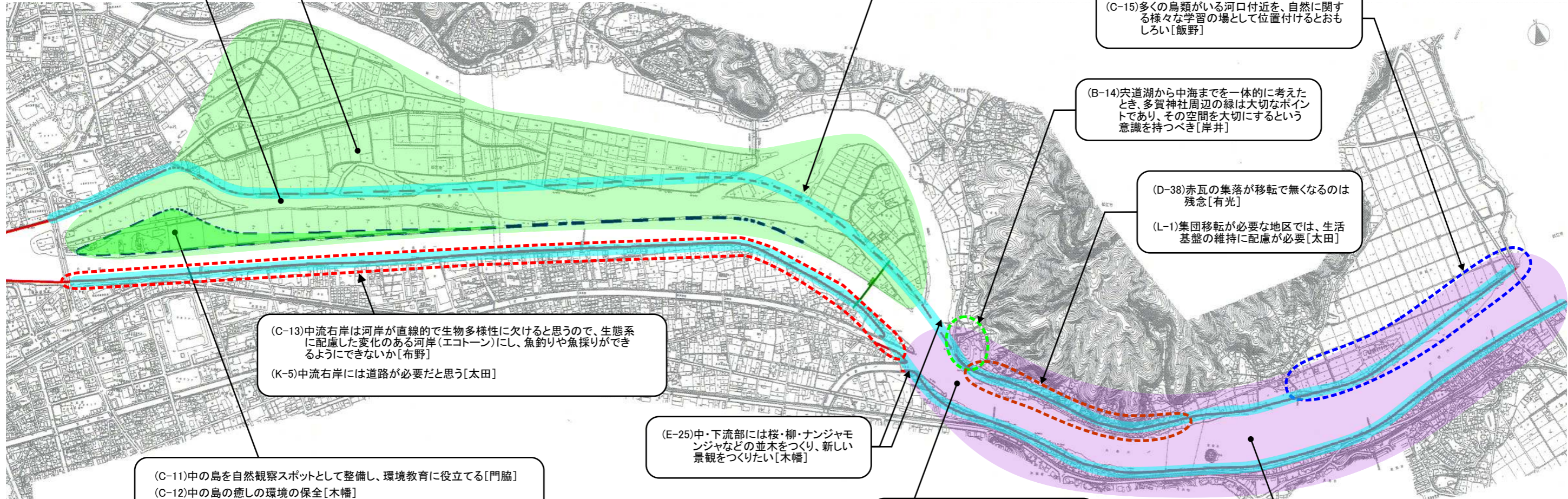
(C-13)中流右岸は河岸が直線的で生物多様性に欠けると思うので、生態系に配慮した変化のある河岸(エコトーン)にし、魚釣りや魚採りができるようにできないか[布野]
(K-5)中流右岸には道路が必要だと思う[太田]

(E-25)中・下流部には桜・柳・ナンジャモンジャなどの並木をつくり、新しい景観をつくりたい[木幡]

(C-11)中の島を自然観察スポットとして整備し、環境教育に役立てる[門脇]
(C-12)中の島の癒しの環境の保全[木幡]
(J-24)中の島は可能であれば撤去し、広い水面として水上スポーツの世界大会、全国大会が開催できるようにし、観光と結びつけて地域活性化を図る[島田]

(H-11)洪水時の水位を下げるためには朝酌川合流点付近の川幅と水深が重要なポイントだと思う[泉]

(B-15)水辺に関わる産業としての舟倉や造船所があることが記憶として残るように[有光]
(B-16)朝酌地区に「古代の市場」の案内機能が必要[有光]
(C-14)下流部にヨシ・アシなどをもっと増やせば、生物の生息場所の確保や水質浄化、さらには環境教育にも役立つと思う[門脇]
(D-34)意宇川や茶臼山などの古代景観のすばらしさをもっと認識すべき[桑子]
(D-35)風土記に思いを馳せる景観の保持[飯野]
(D-36)矢田の渡し、出雲風土記[景観専門委員会]
(D-37)矢田の渡し周辺は風土記に描かれた景観を意識して整備し、渡し船を観光船に利用してはどうか[布野]



■第4回・第5回景観専門委員会での検討結果より【大橋川沿川の景観形成に関する基本方針（案）】

大橋川沿川の景観形成に関する基本方針(案)＜上流部＞

- ・ラフカディオ・ハーンの愛した「日本の面影」・静けさを有する空間と、人々が集い・行き交う賑わいの空間が調和した新たな時代にふさわしい景観形成を行う。
- ・大橋や柳並木周辺の風情に配慮した景観形成を行う。
- ・国際文化観光都市松江に相応しい優れた視点場の保全と創出を行う。
- ・水と人、川とまちの近さを活かした景観形成を行う。

・都市の中の日本の面影

(凡例)

- 歴史・伝統を感じさせる区域
- 都市化を感じさせる区域
- 生活の佇まいを感じさせる区域
- 自然の豊かさを感じさせる区域

※茶色字は第5回景観専門委員会の意見をふまえ、新たに追加したキーワード

0 200m

・長い歴史と優れた視点場を有する老舗旅館。
【大橋周辺の左岸（北岸）】



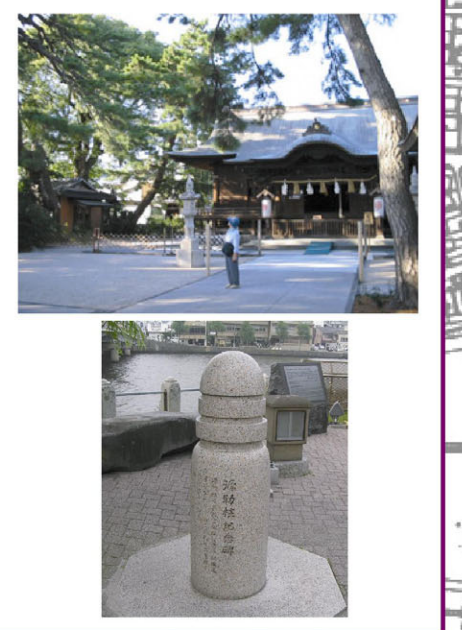
・国際文化観光都市松江の象徴。
・郷愁のある擬宝珠、高欄。



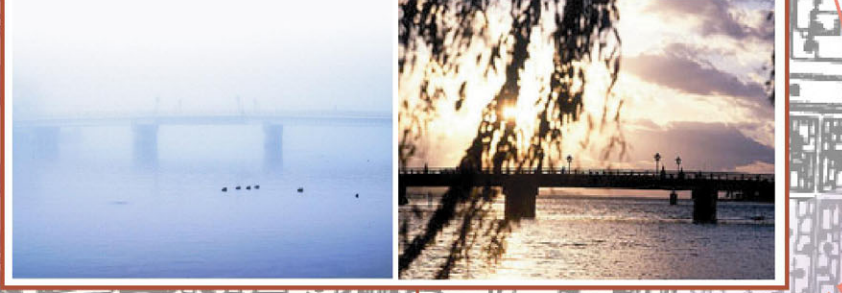
・散策や癒しの場である柳並木。
【大橋周辺から新大橋周辺の左岸（北岸）】



・中世から松江藩の時代、小泉八雲に代表される明治中期にも残っていた古い日本の面影、風情。
【大橋周辺から新大橋周辺の両岸】



・朝霧や夕日の時間帯に幻想的な風景となる大橋及びその周辺と宍道湖。



・水面に近い河岸。



宍道湖大橋

大橋

新大橋

くにびき大橋

・まち並みと河岸の調和。



・静けさ、静寂、水の音。
・国際文化観光都市に相応しい視点場の保全と創出。

・橋詰め広場。



・地場の石で作られた石積みの護岸。



・舟運とともに賑わいのあった（ある）まち並み。
【新大橋下流からくにびき大橋周辺（主に右岸（南岸））】



大橋川沿川の景観形成に関する基本方針(案)＜中流部＞

- 川や水路、湿地(湿性地)などが織りなす水と緑の自然豊かな水郷の景観を活かした景観形成を行う。
- 人々の生活と川とのかかわり(シジミ採り、魚釣り、散策等)に配慮した景観形成を行う。
- 嵩山、和久羅山などを望む広がりのある、のびやかな景観を保全する。

- 水郷松江の原風景
【剣先川と中州(大橋川の左岸(北岸))】。
- 川、水路と水田、湿地(湿性地)などが織りなす中州の景観。



水郷、それは原風景

大橋川の舟運。



嵩山、和久羅山からののびる稜線。



(凡例)

- 歴史・伝統を感じさせる区域
- 都市化を感じさせる区域
- 生活の付まいを感じさせる区域
- 自然の豊かさを感じさせる区域

※茶色字は第5回景観専門委員会の意見をふまえ、新たに追加したキーワード

0 500m

- 人々の生活と川とのかかわり(シジミ採り、魚釣り、散策等)への配慮。
【大橋川の右岸(南岸)】



大橋川沿川の景観形成に関する基本方針(案)＜下流部＞

- ・古代より受け継がれてきた地域の歴史・文化を学び、敬い、後世へ伝えていけるような景観形成を行う。
- ・人々の生活と川とのかかわり(矢田の渡し、魚釣り、散策等)や水際の植生等へ配慮した景観形成を行う。

・今に残る風土記の面影

(凡例)

- 歴史・伝統を感じさせる区域
- 都市化を感じさせる区域
- 生活の佇まいを感じさせる区域
- 自然の豊かさを感じさせる区域

※茶色字は第5回景観専門委員会の意見をふまえ、新たに追加したキーワード

0 300m

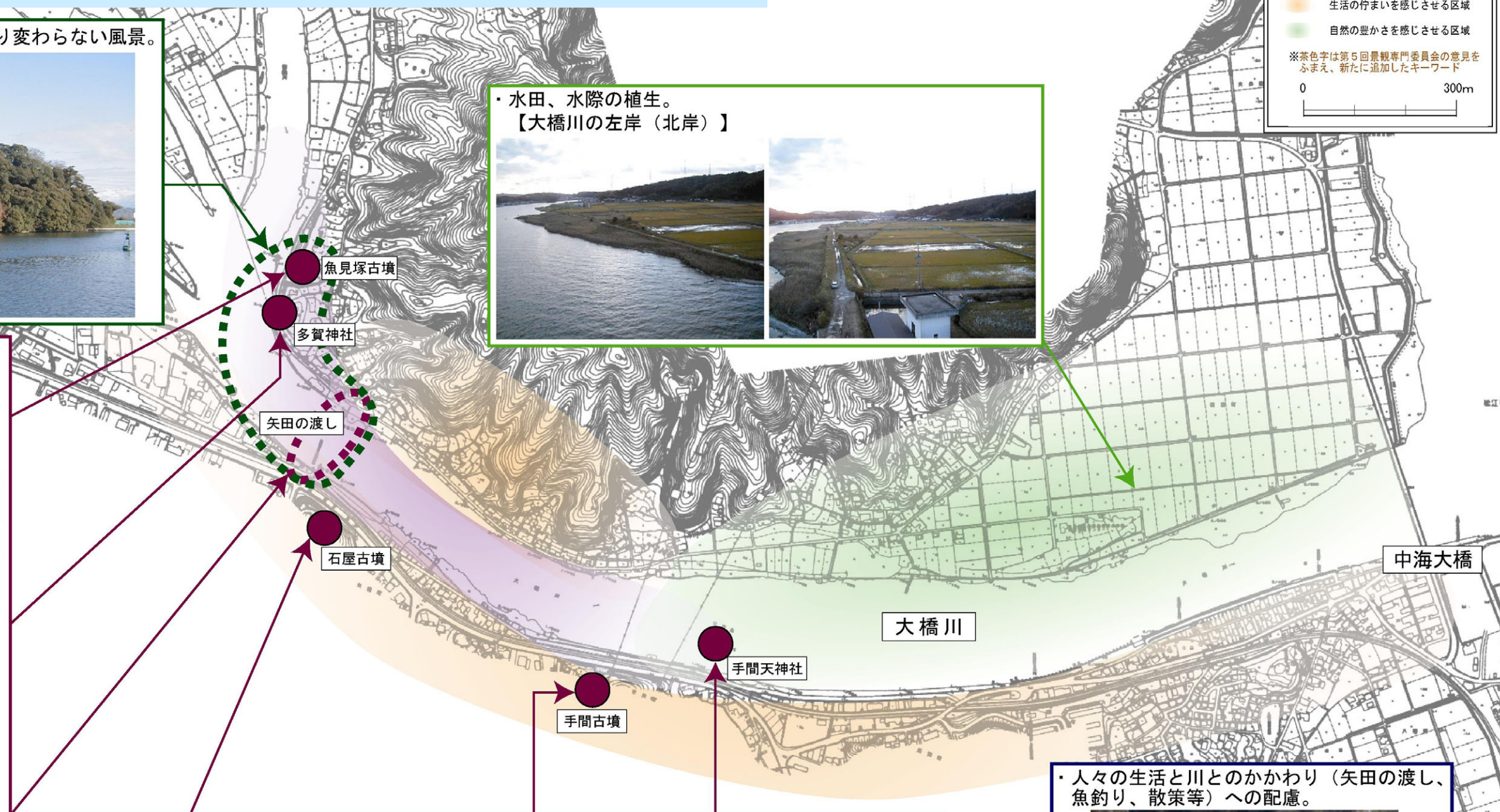
・出雲国風土記の時代からあまり変わらない風景。



・水田、水際の植生。
【大橋川の左岸(北岸)】



・古墳や歴史ある神社、矢田の渡し(朝酌促戸の渡し)。



・人々の生活と川とのかかわり(矢田の渡し、魚釣り、散策等)への配慮。

